



## あなたも参加しませんか 生活と環境まつり

### エコドライブ推進週間

2007年2月16日「京都議定書発効記念2周年一斉行動」。ノーマイカー通勤にあわせて初めてライトダウンに取り組む。5,636人が参加。CO<sub>2</sub>、5.7tの削減効果。

2007年6月5日から11日「環境の日、一斉行動週間」会社独自の取り組みにチャレンジ。13,485人が参加。CO<sub>2</sub>、15.8tの削減効果。

これらの取り組みが評価され、信州減CO<sub>2</sub>づくりコンテスト「信州グランプリ」受賞にもつながりました。

地域ぐるみ環境 ISO 研究会から、今年3度目の一斉行動をご案内します。



10月25日(木)から31日(水)にかけて「生活と環境まつり、エコドライブ推進週間」を行います。

エコドライブに取り組む

週1回以上ノーマイカー通勤を行う。

午後10時までに家庭の照明及びテレビの電源を切る取り組みを行う。

生活と環境まつりに参加する。

今回の一斉行動の内容です。参加することで意識が変わり、他の人にも広げていく。温暖化防止の輪を広げる活動へ、多くの皆様の参加をお待ちしています。取り組みの詳細は以下HPを参照ください。

<http://www.city.iida.nagano.jp/kankyo/iso/index.html>

## 首都コン先進事例 DVD 飯田の取り組みを取材

「絶滅のおそれのあるギフチョウが、再び舞い踊る地域にするために、生涯活動を続けます」。



環境首都コンテストに参加する自治体の先進的な取り組みを、DVDの作品とすることで、取り組みの輪を広げていく。環境首都コンテストを主催する環境市民では、一昨年からコンテストに参加する自治体を対象に、先進事例集のDVDを作成しています。3年目の今年、モデルの自治体の一つに飯田市が選ばれました。27日から28日にかけて、市内各所で進められる先進事例の取り組みがカメラに納められました。

冒頭は、竜丘公民館でギフチョウ保護の活動を進める、塩澤義男さんのことばです。塩澤さんは夫婦で紙芝居「ギフチョウ物語」を作成し、子どもたちや外国からの研修生等に伝えています。竜丘公民館では60才以上の住民が主体的に多様な学習を進めている「大人の学校」風景も取材を受けました。

環境首都を実現するためには、環境問題を越えて、持続可能な地域を創るための総合的な取り組みが求められます。

飯田市は毎年多くの先進事例が評価されています。2006年第6回コンテストで飯田市は、6つの事例が紹介されました。通算でも18事例が紹介されています。市民主体の取り組みや、市民、事業所、行政のパートナーシップによる多様な取り組みが、飯田の特徴です。



## 多くの皆さんの協力で 作品の完成が楽しみです

「京都議定書が採択された1997年に研究会も発足、さきがけとして歩んだ取り組みも10年たちました。常に新しいチャレンジを行いながら、面の取り組みへと広がっています」(萩本範文研究会代表)。



「縦割り行政だけでなく、行政の枠も越えた統合的なアプローチで、持続可能な地域を創ります」(牧野光朗飯田市長)。



「みんなでいっしょに読むことは、一人の読書よりもずっと深い。読書を通して見えないものが見えるようになる。市民の力を蓄えています」(飯伊婦人文庫吉田五十鈴代表)。



「自治基本条例を作るために全国で初めて議会に審議会を設置。市政懇談会などことあるごとに進めた市民とのキャッチボール。条例の内容以上に取り組みの過程を大事にしてきました」(中島武津雄元自治基本条例特別委員長)。



「共同発電所づくり、グリーン証書、保育園児への環境教育、市民出資を元手に、地域ぐるみの温暖化防止活動に取り組んでいます」(おひさま進歩エネルギー(有)原亮弘社長)。



「太陽光発電をきっかけとして、子どもたちに環境意識が芽生えてきました。家庭への広がりから、感動的な物語をたくさん与えていただきました」(明星保育園宮下明子園長)。



一人ひとりの熱いことばが詰まっています。作品の完成が楽しみです。

\*\*\*\*\*

【ご意見、お問合せ】【配信解除】  
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局  
[toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp](mailto:toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp)  
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局  
[ic1267@city.iida.nagano.jp](mailto:ic1267@city.iida.nagano.jp)



## 先駆けの取り組みに誇りを 研究会代表者会開かれる

「エコタウンサロンから10年。環境ISOのノウハウを共有し、事業所の取り組みのレベルアップを図ることを目的に6事業所から出発した研究会。今や30事業所7,000人の組織となりました。この間、受賞という形で外部からの評価もいただき、運動も広がってきました。前回代表者会では下伊那農業高校と飯田長姫高校、今回は飯田工業高校と、高校生と研究会を結び取り組みも始まっています。京都議定書が採択された1997年に発足した研究会。先駆けとしての誇りを持って、活動を進めましょう」。

9月28日(金)飯田信用金庫本店で地域ぐるみ環境 ISO 研究会事業所代表者全体会が行われました。冒頭は研究会萩本範文代表のことばです。

会議に先立ち飯田工業高校の皆さんによる研究発表が披露されました。概要は次号ぐるみ通信でご報告します。

## まずは下伊那農業高校で 地域ぐるみ環境講座

前回代表者会で、研究会に参加する事業所と若者や子どもたちを結ぶ教育活動について発言がありました。この発言を受けて、下伊那農業高校で地域ぐるみ環境講座が実現しました。

「地域の事業所の活動を通して、環境問題を身近に感じる機会とする」。「講座をきっかけに地元にこんな企業があるんだということを知る」。「自分の進路を考える材料にする」。3つの視点で臨んだ講座は、研究会にも生徒たちにも好評です。今回を契機に継続と広がりが期待されます。



## 発足 10 周年を記念した 記念事業を行います

1997年に発足した研究会。10年の節目を記念して、記念事業を開催することとなりました。期日は2008年2月16日(土)を予定。事例発表会、座談会、講演会、小中高校生の環境研究に対する表彰など、いくつかアイデアも出されています。事務局を中心に今後企画を煮詰めていきます。

6月から7月にかけて、南信州いむす21に取り組む事業所の訪問支援を行いました。「取り組み事例の交流や、研修会、相談の受け入れなどのフォローアップのしくみが必要」「商店街などの取り組みにあわせたしくみづくり」など多くの課題が見えてきました。実務者を中心に今後改善策を講じていきます。

10月27日(土)28日(日)の生活と環境まつりには、今年もクラフト細工コーナーで出展参加。生活と環境まつりの開催にあわせた10月25日(木)から31日(水)は、エコドライブ推進週間を実施。温暖化防止の一斉行動を研究会が呼びかけます。

## 若い人に引き継ぐために

「環境首都コンテストで飯田市が全国5位となった原動力は、研究会に代表される市民参加とパートナーシップの取り組みです。北極の氷の消滅危機、台風の大型化など地球温暖化は予想以上に深刻です。研究会の地道な取り組みを、マンネリとしないためには、常に自分を奮い立たせることが必要です。この地を若い人たちに受け継いでいくためにがんばりましょう」。牧野市長のまとめのことばです。



## 参加事業所近況報告

各事業所の近況報告です。

「リサイクルの広がりで、PETボトルは記録的な引取量に(アース・グリーンマネジメント)」「全社展開のISO9001でEMSの研修会(旭松食品)」「研究会の協力で相互内部監査が無事終了(飯田市役所)」「職員全員で飯田まつりにあわせてりんご並木を清掃(飯田商工会議所)」「昨年度の取り組みをディスクロージャー誌とHPで報告(飯田信用金庫)」「研究会から発信される一斉行動に参加(井坪設備工業)」「MFCAの手法を取り入れて、資源とコストのロス削減に取組中(オムロン飯田)」「廃プラの排出抑制と資源化に向けて実態数値を水平展開(化成工業)」「土木と建築作業所の環境側面を別々に抽出評価する方法に変更(木下建設)」「毎月第1水曜日に、ノー残業デーにあわせてライトダウンも取り組み(神稲建設)」「殿岡工場が第2種エネルギー管理工場に指定。温室効果ガス削減に努めている(シチズン平和時計)」「冷やしたタオルを使用し冷房は使わないなど省エネ省資源『一日一善』運動を進めている(信南サービス)」「2008年2月ISO14001認証取得に向けて準備中(タカモリ)」「中電グループ企業EMS達成に向けて取組中(中部電力)」「日経環境経営度ランキングでTDKが第8位に(TDK飯田)」「小さな親切運動(飯田支部より)『小さな親切運動実行賞』を受賞(トーエネック)」「会社全体で、松川周辺と川路駅の環境ボランティア活動を実施(夏目光学)」「ノーマイカー・ノーレジ袋など家庭でできるエコ推進を呼びかけ(南信共同アスコン)」「EMSとQMSの統合、自己適合宣言なども視野に入れ自社EMSの見直し中(パチンコダイエーグループ)」「本社で進めているエコロジー大賞で飯田支店は、団体部門、提案部門、標語部門で優秀賞を受賞(八十二銀行飯田支店)」「オフロード法に基づく新機種発表会を全事業所で実施(原鉄)」「組織改革後、広く地域の環境保全に貢献できる取り組みに挑戦したい(東日本システム建設)」「毎週土曜日会社前沿線の清掃活動、九月に松川の草刈りを実施(マエタ)」「20%薄板化太陽電池セル、消費電力22%低減換気扇パイプファンを発売(三菱電機中津川製作所飯田工場)」「端材処理リサイクル設備の更新準備中(盟和産業)」「りんご並木の清掃活動、天竜川水系健康診断活動に継続して参加(吉川建設)」「ソニーグリーンパートナー認証に取組中(多摩川精機)」



【ご意見、お問合せ】【配信解除】  
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局  
toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp  
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局  
ic1267@city.iida.nagano.jp



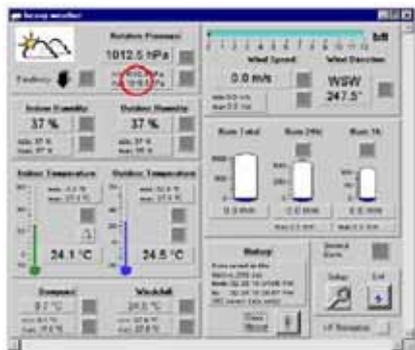
## 気象ロボットの研究と製作 飯工生徒の代表者会で発表

「知的所有権の学習も兼ね、特許出願までを目標に取り組んでいます」。



9月28日(金)研究会事業所代表者全体会の場で、飯田工業高校生徒の皆さんが、日頃の研究や活動の成果を発表してくれました。冒頭は同校機械科の鈴川裕太君、松井悟君、宮沢克也君、吉沢雄貴君による「気象ロボットの研究・製作と実践活用」です。

IPDLなどでの検索を進め、「電源をすべて自己発電」「多機能センサー」「リアルタイムの情報発信」など独自の機能を持ったロボットとして現在設計製作中です。風向、風力、温度、湿度、気圧、震度、排気ガス、雨量、UVセンサー、ライブカメラなどのセンサーを備えています。



学校周辺の気象データを計測・収集・解析、環境を目に見える形に変えて情報発信することで、地域にも貢献できる研究にしたい。気象ロボット製作の目的です。

「初めてのアルミ溶接は、これまでの溶接と異なり、溶けやすく大変でした」。製作過程での苦労も大事な実習です。

## 生徒会から発信する 飯工の環境ISO活動

「年4回の生徒総会では必ず、ISOについての学習を進めています」。ISO推進委員会の羽場賢君と宮下和夫君による飯田工業高校生徒会の、環境ISOの活動報告です。



2004年5月20日同校生徒会は南信州いむす21に登録。今年4月25日初級で更新。現在ISO 14001南信州宣言に向けて準備中です。

「環境学習の展開」「生徒会活動の活発化」「環境負荷の低減」「環境マネジメントシステムの構築」「地域との協力」が環境方針です。「燃えるごみ量10%削減」「分別回収」「電気・水道使用量の削減」「OIDE清掃」「毎月の電気水道使用量を調べる環境負荷調査」「ISO新聞の発行」が取り組み目標です。



「ゴミ減量のため、水筒持参の取り組みも始めました」。毎週月水金はリサイクルプラスチックと缶、火木は燃えるごみとペットボトル、クラスごとに分別後、ごみ集積場に集めます。学期の最終日は一斉に部室を清掃します。OIDE清掃は毎月クラスごとに当番となり、地域の清掃活動を進めています。

環境ISOの活動を通し、校風もブラッシュアップ。南信州宣言に向けて、取り組みは着々と進んでいます。

## 「いい環」発足 温暖化防止活動の広がりを

「かけがえのない地球の生態系の中で、豊かな自然と共生する持続可能な循環型社会を形成するため市民・市民団体・企業と連携し、地域ぐるみで防止活動を推進していくことを目的に協議会を設立します」。

10月1日飯田市環境技術開発センターで、飯田地球温暖化対策地域協議会「いいだ温暖化防止の環」が発足しました。



前身は飯田市環境協議会。略称は「いい環」。様々な地域の組織や個人が結びつき、新エネルギーや省エネルギーの取り組みをの環を広げ、温室効果ガスの削減を進めることが設立の目的です。

代表はグリーンクラブいーだの今村良子さん。地域ぐるみ環境ISO研究会も組織として参加。いい環への参加が、エコドライブ推進週間など、研究会が呼びかける温暖化防止の一斉行動の環を広げる機会となることも期待されます。発足にあわせて、会員を募集中です。詳しくは事務局の飯田市役所環境課まで。Tel 22-4511 内線5247

設立時の構成団体・個人は以下の通り。飯田市環境アドバイザー連絡会/NPO法人いいだ自然エネルギーネット山法師/飯田商工会議所女性会/飯田消費者の会/おひさま進歩エネルギー有限公司/グリーンクラブいーだ/NPO法人信州伊那谷環境再生研究会/NPO法人信州グリーンパワープラント/地域ぐるみ環境ISO研究会/松島信雄/NPO法人緑の家学校飯田校/NPO法人南信州おひさま進歩/南信バイオマス協同組合/飯田市(順不同:敬称略)

【ご意見、お問合せ】【配信解除】  
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局  
[toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp](mailto:toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp)  
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局  
[ic1267@city.iida.nagano.jp](mailto:ic1267@city.iida.nagano.jp)



## 熊本からも飯田へ 首都コン中部地区交流会

「4月22日はアースデイ。この日ははさんだ1週間をアースウィークとし、1990年から環境保護の取り組みを進めてきました。市民発意の取り組みが次第に行政を巻き込み、大きな運動となっています」。



10月5日(金)午後1時から、飯田市役所を会場に、環境首都コンテスト中部地区交流会が開催されました。交流会は環境首都コンテストに参加する中部地区の自治体が一堂に会し、先進的な取り組みを交流することが目的です。

冒頭はゲストとして参加した、環境ネットワークくまもと、原育美さんのことばです。熊本ではすでに1994年からノーマイカーディにに取り組んでいます。バス半額券の発行や市民パレードなど、様々なしかけも用意しています。地域ぐるみ環境ISO研究会の一斉行動で取り組み成果をCO2削減値に換算した試みも参考に、取り組みのブラッシュアップを進めています。

エコパートナーくまもとは、市民・事業者・行政の協働の組織。地域通貨も導入したエコ・フリーマーケット。連続講座「よかエネ市民学校」。市民活動が行政を巻き込んで、取り組みの環を広げています。

2004年4月には、一口3,000円の市民寄付により、「かんくまおひさまプロジェクト」市民共同発電所もスタート。熊本の元気を飯田に運んでくれました。



## 市民参加や新エネ省エネ 先進事例で交流

「ウルム市はパッシブソーラーシステムや地熱を利用することで、2020年には国の目標40%を超える、50%のCO2削減を目指しています」。ドイツウルム市から飯田市への交流職員ペーター・リンメルさんの報告です。



「環境プラン策定に取り組んだ市民有志によりNPO法人にしん市民環境ネットを設立。エコ生活、こどもの参画、みんなにやさしい交通など様々なPJをつくり市民発意の環境改善活動を広げています。環境まちづくり基本条例も市民提案です」。(日進市)



「おはよう会は市役所周辺をきれいにする職員の自主グループ。現在77名が参加しています。清掃作業で生まれた落ち葉の堆肥化やヤギによる放牧除草実験なども取り組んでいます。環境専任の山田専任助役(現副市長)を招いたことで職員の行動や意識が変わってきました」(安城市)



「環境にやさしい、かしこくしっかりした子どもを育てる、地域との共生。3つの方針に基づき、市民参加小学校づくりに取り組みました。438ものアイデアから、おしゃべりができるスペース、ひみつの通路、まちを見渡せる屋上プールなど子どもや地域に親しまれる滝呂小学校となりました」(多治見市)



「剪定枝・薪ストーブ活用事業」(長野市)、「市民出資による太陽光共同発電」(飯田市)など、コンテストの先進事例として紹介された魅力的な取り組みが交流されました。

## 南信州の自然文化を満喫 2日目はエコツアー

「畜産農家とJA、行政が協働し、循環型の地域づくりに向けて堆肥センターを設立しました。畜産農家の畜ふん、きのこ農家の廃培地、市街地家庭の生ゴミから、年間1800tの堆肥を生産しています」。(飯田市堆肥センター)

10月6日(土)は交流会参加者によるエコツアーです。

「電力は太陽光と風力。トイレの水は雨水。風呂やシャワーは太陽熱。煮炊きはかまど。カーボンゼロハウスをメンバー手作りで建設中です」。(NPO法人いいだエネルギーネット山法師：化石燃料ゼロハウス「風の学舎」)午前中は循環型地域づくりの取り組み現場の視察です。



地域の女性たちで休日のみ営業、日本のチロルといわれる上村下栗「はんば亭」。千と千尋の神隠しのモチーフになったといわれる、遠山の霜月祭を紹介した「まつり伝承館天伯」。旧木沢小学校の校舎を活用してエコツーリズムに取り組む木沢地区活性化委員会。午後は2005年の10月に合併した遠山郷の自然を堪能しました。



【ご意見、お問合せ】【配信解除】  
沢柳俊之(多摩川精機株式会社) 研究会事務局  
[toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp](mailto:toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp)  
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局  
[ic1267@city.iida.nagano.jp](mailto:ic1267@city.iida.nagano.jp)



## 飯沼地区の事業所が 南信州いむす21現地研修

「スティックシュガーを6グラムから3グラムに。ジャム・マーガリンのポーションをピン詰め製品に。コーヒーのクリーミーポーションをミルクピッチャーに。納品される材料は通い箱へ。社員による提案運動『一日一善』の積み重ねで、環境改善を進めています」。



10月12日(金)飯沼地区事業所環境保全対策協議会による、視察研修が行われました。33の事業所が加入する同協議会では、事業所ごとに油水分離層を設置。水質汚染を予防するために事業所同士の相互点検活動を、30年以上続けています。

同協議会では、2006年度から5年をかけて、すべての参加事業所が、南信州いむす21に取り組むことをめざしています。

冒頭は信南サービス株式会社が運営する駒ヶ岳サービスエリアの取り組みです。地域ぐるみ環境ISO研究会のメンバーでもある同社では、従業員あがてEMSに取り組んでいます。全社員参加の提案制度、提案されたアイデアあふれる様々な取り組み。取り組みのヒントをいただきました。

## 環境美化から始まる かんでんぱぱの取り組み

「環境問題は環境美化から始まります。3万坪のかんでんぱぱガーデンは、始業30分前から社員全員が清掃活動を進めるアダプトプログラムで管理しています」。続いて訪れたのは伊那食品工業株式会社北丘工場。丸山勝治秘書広報室長からお話を伺いました。

## 限りある人生を精一杯に 100年カレンダーへの思い

天草を原料とする寒天。同社では、製品残渣を活用するためにユニークな取り組みを進めています。「ばば菜農園(株)を起業。65才を超えた社員の働く場を提供しています。海草から生まれた製品残渣でつくる堆肥アガライトはミネラルが豊富。休耕農地8町歩で作った野菜は、自社レストランでも使っています」。入社した社員全員に配る100年カレンダー。1枚に自分の人生が詰まっています。限りある人生を精一杯生きましようというメッセージ。

人も環境も大事にする同社。たくさんの方がを教えてくださいました。



## 木曽の豊かな自然にふれる

「サワラ、ネズコ、モミ、カラマツ、ブナ、ヒノキ、カツラ。城山にはたくさんの巨木があります。私たちは自治体やNPOと協働し、山に親しみ山を守るための活動を進めています」。続いて木曽町福島、中部森林管理局が設置した木曽森林環境保全ふれあいセンターを訪問。眞田公一所長に城山を案内していただきました。同センターの活動は「高山植物の再生」「王滝地震からの復興」「城山林道整備」。豊かな自然を堪能しました。



## 地球交響曲第六番上演 佐治晴夫博士講演会も

「我々が住むこの世界は、生々流転するすべての存在が、それぞれに独自の音楽を奏でながら、互いに響き合い、次々と新しいハーモニーを生み出しつつ、ライブ演奏されてゆく壮大なシンフォニーのようなものです。『音を観て、光を聴く』旅、それが『地球交響曲第六番』の旅です」

10月28日(日)午前11時45分より鼎文化センターホールで、映画「地球交響曲第六番」が上映されます。冒頭は監督の龍村仁氏のことばです。生活と環境まつりにあわせて上演。市民出資による「おひさまファンドキックオフセレモニー」も行われます。上演に合わせて、映画出演者で笛奏者の雲龍氏によるミニコンサートも行われます。大人1,000円、高校生以下500円のチケットが必要です。(当日も販売)

10月26日(金)午後6時から、竜丘公民館で上映。宇宙物理学者佐治晴夫博士による講演会「宇宙の響き」と、出演者KNOB氏、雲龍氏によるミニコンサートも行われます。佐治博士は、量子論的無の「ゆらぎ」からの宇宙創生理論のほか、NASAボイジャー計画やET探査にも関与。またパイプオルガン演奏で始める宇宙論講義や天文台で「真昼の星」を見せるなど、文系・理系の枠を越えた教育の実践でも知られています。公演の合間にはピアノ演奏も行われます。大人2,500円、高校生以下1,500円。

券の購入、映画会についてのお問い合わせはSTELLA WINDOW大蔵さん(52-3608)、または飯田市役所環境課(22-4511内線5245)まで。

\*\*\*\*\*

【ご意見、お問合せ】【配信解除】  
沢柳俊之(多摩川精機(株) 研究会事務局  
[toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp](mailto:toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp)  
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局  
[ic1267@city.iida.nagano.jp](mailto:ic1267@city.iida.nagano.jp)



## 宇宙から人類を考える 佐治晴夫さん飯田で講演

「7,500万年前から地球に生息している鯨は、自らの鳴き声で、人間が生み出したソナタと同じ法則の音楽を奏でています。音は根源的なもの。音楽は音を論理的に組み合わせて作られています。太陽系外惑星探査機ボイジャーに、バッハの平均律を搭載する提案を行ったのは、音楽には言葉を超えたコミュニケーションがあるからです」。



10月26日(金)竜丘公民館で佐治晴夫さんの講演会が行われました。テーマは「宇宙の響き」。映画「地球交響曲(ガイアシンフォニー)～第6番」上映会に合わせて開催。10月27日(土)28日(日)、鼎文化センター、同体育館を会場に行われる生活と環境まつりのイベントです。

佐治さんは鈴鹿短大学長。基礎数学、理論物理学者。量子論的「無」のゆらぎからの宇宙創生理論で知られています。

## 宇宙は壮大な循環を 繰り返している

「チョウを捕まえようとするとき。捕まえられまいとチョウはピストルの弾丸の1/5ものスピードを出します。命は続きたいと願うもの。星が大爆発を起こして死ぬときに、パルサーという音を出します。星にも誕生があり、死もあります。星の最後は内部に燃やすものがなくなり圧縮して爆発します。その時につくられるのが鉄。鉄は人の血液の元です。星が死んでしまうと黒くなります。それは炭化です。炭は命の元。星の最後に宇宙空間にばらまかれ、新しい生命を生み出します。宇宙は壮大な循環を繰り返しているのです」。

## 10世代前は1,024人 自分以外のものがいて自分

「新聞紙を2つ、また2つと折り続けます。2、4、8、16、32...。厚さが3,000mの南アルプスを超えるのは25回折ったとき。42回折ると地球から月までの距離を2万kmオーバーします。あなたの親の親は4人、その親は8人。長野の善光寺が建立された頃までさかのぼれば125億人。そのうち一人でも欠けていれば、あなたは生まれてこなかった。あなたは一人では生きることができません。あなた以外のものに生かされているのです」。

## やさしさを数学で考える

「慈悲の慈はメッタ。人を安らかにさせられたらいいなと、心から望むこと。悲はカルーナ。相手から悲しみを取ってあげられたらいいなと、心から願うこと。人は相手が喜んでくれると自分もうれしくなる。あなたのために をあげるのではなく、をもらって喜んでくれてうれしいのです。自分が幸せであることは、相手が良かったと喜んでくれるとき。やさしさとは、自分>相手という関係を、相手>自分という関係に逆転させることです」。

## ボイジャーに込めた 音楽の意味

「音と数学によって構成された音楽。人類の歴史は戦いに明け暮れています。ボイジャーにバッハの平均律を搭載したのは、必ず存在するであろう地球外生命から、戦いとは異なる生命の発達を確かめるため」。最後は佐治さん自らピアノ演奏。心温まる講演会でした。



## すべての存在は響きあう 映画地球交響曲第六番より

「音は神なり」。シタール奏者ラヴィ・シャンカールさん。ベートルズのジョージ・ハリスンも弟子入りしたその音楽は、インド数千年の英知を継いだもの。「自(おの)ずと然(しか)る」。ピアニスト、ケリー・ヨストさん。幼い頃から大自然の山や川、森や湖との超越的な交感を経験。ひたすらピアノの中から「光の音」を紡ぎ出すことに全霊を捧げています。

「美が世界を救う」。海洋生物学者ロジャー・ペインさん。ザトウクジラが歌をうたうことを世界で初めて発見し、その構造を人間が作曲する音楽の構造と非常によく似ていることを発表。

合間に奏でられる「虚空の音」。映画出演者であり、飯田を拠点に音楽活動を進める笛奏者雲龍さん。天然空洞木「ディジュリドゥ」を奏でるKNOB(ノブ)さんによるミニコンサートも行われました。



「音を観て、光を聴く」。「地球交響曲(ガイアシンフォニー)～第6番」は、10月28日(日)午前12時30分から、鼎文化センターホールでも上映されます。上映会のあと、雲龍さんのミニコンサートも行われます。参加費は大人1,000円、高校生以下500円。チケットはまつり総合窓口や会場で販売しています。

\*\*\*\*\*

【ご意見、お問合せ】【配信解除】  
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局  
toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp  
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局  
ic1267@city.iida.nagano.jp



## 今年もにぎわいました 生活と環境まつり

10月27日(土)28日(日)県体育館・県文化センターを会場に、生活と環境まつりが開催されました。NHKの収録も行われた食育フェア、おひさま共同発電所キックオフセレモニー、映画ガイアシンフォニーの上映会など、新しい企画も好評で、2日間5,500人の人出でにぎわいました。

## 研究会企画のクラフト細工 今年も親子や家族で盛況

研究会は今年もクラフト細工コーナーを企画。2日間たえ間なくにぎわいました。写真でふりかえります。



## おかあさんといっしょに



## おねえちゃんといもうとと



## お父さんの出番です



## 気合いが入っています



## 牧野市長といっしょに



## スタッフもがんばりました



【ご意見、お問合せ】【配信解除】  
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局  
[toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp](mailto:toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp)  
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局  
[ic1267@city.iida.nagano.jp](mailto:ic1267@city.iida.nagano.jp)



## 自己適合宣言に向けて ダイア4市で研修会開催

ダイア(DIA)。D=Dramatic Space(誰もが集え、楽しめる劇場空間づくり)、I=Interaction System(様々な交流を可能とする活動、交流システムづくり) A=Amenity Network(誰もが憩える水と緑のネットワークづくり)。圏域人口72万、面積300km<sup>2</sup>の所沢市、飯能市、狭山市、入間市。4市は、地域の特性を生かした自立したまちづくりをすすめるために「埼玉県西部地域まちづくり構想(ダイアプラン)」を策定。協働で様々な取り組みを進めています。

ISO14001でも、各市の内部監査員が交流する「協働監査」を進めています。2008年4月には、協働で自己適合宣言を行う計画です。

10月22日(月)、入間市役所で4市合同のEMS研修会が行われました。テーマは自己適合宣言。2003年1月、日本の自治体として初めて自己適合宣言した飯田市の事例を小野寺、木下が報告。EMS事務局、内部監査員など50人が参加しました。



「自己適合宣言を行った組織では、規格との適合やシステムの有効性を確認する内部監査は最も重要。第三者の視点が入る協働監査のしくみは有効です」。「EMSは継続的改善のしくみ。宣言をきっかけに、全職員の参加で、本来業務の改善に踏み込んでください」。「『挑戦!環境首都への道』など、市長の意志を職員に伝える機会を大事にしています。トップマネージメントのコミットメントをどう厚くするかは課題です」。

自己適合宣言を機会に、ダイア4市のEMSが一層深まることが期待されます。

## 高岡で独自システムを構築 環境活動評価プログラム

「これからの私たちには、経済的側面だけでなく、環境的側面とのバランスも考えた『最適生産・最適消費・最適廃棄』の持続可能な循環型社会を実現するための企業経営を積極的に取り組むことがとても重要になっています」。

高岡市商工会議所青年部では、独自の「青年部式継続的環境改善システム～環境活動評価プログラム」を構築。2008年1月より取り組みが始められます。冒頭はシステム説明書にまとめられた「環境への取り組みの勧め」の引用です。

2006年6月同青年部は飯田を訪問。私たち研究会との交流を行いました。地域独自のEMS南信州いむす21に注目した同会では、今年2月には神戸(財)ひょうご環境創造協会を視察し、エコアクション21について学習。独自システムはエコアクション21を参考にしたものです。

「両面印刷、両面コピーを徹底」「冷暖房の適正温度管理」... (会社用)「メールなどの電子情報を活用」「例会資料を簡素化する」... (青年部活動)「テレビを観る時間を減らす」「家族団らんを心がける」... (家庭)。

手引きでは具体的な改善テーマが示され、まず会社、青年部活動、家庭で進めている環境への取り組みや、環境家計簿で会社の活動を自己チェック。そして環境にたいする方針を作ります。チェックと環境方針に基づいて、「環境への削減目標と計画の作成(Plan)」「計画の実施(Do)」「取組状況の確認・是正(Check)」「見直し(Action)」「活動のまとめの作成」。継続的改善を図ります。

商工会議所の環境改善の取り組みが、地域へ広がるきっかけになりそうです。

## エマルジョン燃料研修会 三浦隆利先生を講師に

「廃油や重油・軽油などの燃料油に水や界面活性剤を加え、混ぜ合わせた燃料」。エマルジョン燃料といわれます。窒素酸化物や粒子状物質(PM)の発生を抑え、内燃機関が排出するガスがもたらす環境負荷を押さえる働きがあるそうです。



11月9日(金)午後6時30分より飯田商工会議所3階会議室でエマルジョン燃料についての学習会が行われます。主催はNPO法人南信州おひさま進歩。テーマは「てんぷら油を含む、廃油の処理について」。講師は東北大学教授の三浦隆利さんです。三浦さんはエネルギーや物質の生産工程で環境を考慮したしくみづくりの研究者。NPO法人環境会議所東北の顧問でもあります。

同会議所は、中小・中堅企業が進める環境経営を支援し、持続可能な地域づくりを進めることを目的に、1997年に設立。独自のEMS「みちのくEMS」を構築・運用しています。

化石燃料が高騰し、事業所経営や家計のやりくりも大変です。一方家庭や飲食店が排出する廃食用油は40万t。そのうち未回収は20万t。脱化石燃料、資源循環の取り組みと経営や家計の改善にも結びつける。そんなヒントを学んでみませんか。

講座についての照会・申込みは南信州おひさま進歩事務局まで。Tel/fax 24-4821

\*\*\*\*\*

季節も急に秋めき、冬の訪れももうすぐと感じられるようになってきました。風邪など体調を崩す人も多いようです。季節の変わり目には特に健康管理が大切です。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】  
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局  
toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp  
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局  
ic1267@city.iida.nagano.jp



## テーマはエコロジー 下農で文化祭が行われる

「今年のテーマはエコロジーです。そこで私たちはこんな工夫をしました。電力を節約するために...装飾には竹と葉っぱなどを使用。それはなぜ? 紙を節約するため、毎年紙などで行っていた装飾を落ち葉など自然のものを使いカラフルにしてみました。装飾の竹は、1年ですぐに成長し、毎年使え...これぞエコロジー」。



11月10日(土)11日(日)下伊那農業高校の文化祭「稲丘祭」が行われました。冒頭は同校食品化学科の文化祭テーマです。会場の飾り付けもエコロジーにこだわりました。



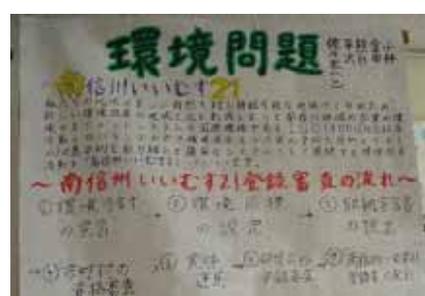
校舎内では食品の試食と研究発表のコーナーが設けられました。手作りの紅茶、あん、パンなどを試食した参加者がアンケートに答えます。



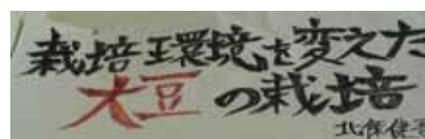
## 南信州いむす21も紹介 研究発表コーナー

「これからできること。『使っていないコンセントは抜いておく』『身の回りの一つひとつの無駄をなくし、再利用できるものは資源にまわすよう、一人ひとりが考えます』」

地域ぐるみ環境講座の学習成果もまとめられています。環境マネジメントシステムのしくみと、オムロン飯田株の取り組みが紹介されています。



「竹を利用したお茶の製造」「土壌のPHの違いによるほうれん草の鉄分含有量の違い」「水の硬度によるパンの質の違い」「卵アレルギーの人のためのパウンドケーキ」「おからを利用したあんの製造」など、グループ研究の成果も発表されています。地元食品会社の調査も行われ、研究会メンバーの旭松食品も紹介されました。



生徒手作りの米粉製「米(べい)カレー」も人気です。販売直後に売り切れました。屋外には学年ごとに開いたうどん、五平餅、焼き肉の販売コーナーも。多くの来場者でにぎわいました。

## 阿智高校を会場に 不都合な真実の上演会が

今年のノーベル平和賞は、地球温暖化について国際的な科学者たちが知見や評価を行うIPCCと、元アメリカ副大統領アル・ゴア氏が受賞しました。

IPCC報告では地球温暖化の原因は90%以上の確立で人類起源とされています。温暖化の大きな要因である戦争。資源問題は時に戦争に発展します。アフリカの植林運動を進めるワンガリ・マータイさんも2004年に同賞受賞。21世紀、環境と平和は密接に結びついています。

11月16日(金)午後1時40分から、及び17日(土)午後1時30分から阿智高校第1体育館を会場に、「不都合な真実」の上映会が行われます。主催は盟和産業(株)長野営業所、地域ぐるみ環境ISO研究会と阿智高校が協賛します。



ノーベル平和賞を受賞した、アル・ゴア氏による地球温暖化問題の危機的な現状の報告を、映画を通して学んでみませんか。参加費は無料、暖かい支度でお越しください。

映画についてのお問い合わせは盟和産業(株)阿智工場、福岡さんまで。tel 43-3111。

\*\*\*\*\*  
【ご意見、お問合せ】【配信解除】  
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局  
[toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp](mailto:toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp)  
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局  
[ic1267@city.iida.nagano.jp](mailto:ic1267@city.iida.nagano.jp)



## JAB/ISO14001のWG 研究会の活動取材



「地域に雇用をつくることを目的とした企業家には、地域に対するロイヤリティ = 忠誠心が必要です。我が社が飯田市と行ったパワーアップ協定は、地域に対する企業としてのマニフェストです」「従業員も会社の門を出れば皆市民です。事業所は地域の経営資源 = リソースをもらって生きています。良質なリソースであるためには、ポテンシャルの高い地域であることが必要です。持続可能な地域づくりを目的とした地域ぐるみ環境ISO研究会の活動も、新しい地域内連携を通して地域のポテンシャルを高めているのです」。

11月19日(月)、20日(火)JAB / ISO14001ワーキンググループの皆さんが、地域ぐるみ環境ISO研究会の活動調査のために飯田市を訪れました。冒頭は取材を受けた萩本範文研究会代表のことばです。

JAB日本適合性認定協会では、毎年2月環境マネジメントシステムの現状と課題について考える公開討論会を開催しています。今年のメインテーマは、「持続可能な社会実現に向けて」。「環境コミュニティの形成による環境パフォーマンスの向上」「EMSの普及促進のために」「QMSとの協調・連携」。EMSが持続可能な地域づくりに有効なツールとして活用されるために、3つのWGそれぞれの切り口から研究を進めています。

飯田を訪れたのは「環境コミュニティの形成による環境パフォーマンスの向上」WGメンバーの新日本監査法人の倉光豊さんと、筑波大学大学院教授の西尾チヅルさんです。

## 点から面への広がり EMSの展開モデルとして

環境問題は地域や社会全体とつながっています。組織の取り組みとして生まれた環境マネジメントシステムも、その組織の中だけの環境改善活動だけで終わらずに、広く地域や社会と結びついていくことが必要です。

「点(事業所)から面(地域)への展開」をめざす研究会。今回のJAB / ISO14001 WGも研究会の取り組みに注目しての訪問です。

## 地域へ広げる ガーデンズの取り組みから

「ダンボール、ペットボトル、割り箸、PPバンドの共同回収。拠点でもあるエコハウスを中心に、共同回収から出発して、循環型の商店街づくりに取り組んでいます」。



19日には南信州いむす21に取り組むガーデンズを調査。飲食店の多いまちの特性からペットボトルを原料としたボールペンも開発。ガーデンズのロゴも入っています。現在交流を進めている飯田市南信濃地区と連携し、間伐材を活用した箸づくりも研究中です。

「大型店舗の撤退や縮小により、まちを訪れる人も大きく減っています。環境や循環をキーワードにさまざまなしかけを作りながら、訪れてみたいまちをつくっていきます」。

ガーデンズの取り組みは、地域コミュニティを再構築するためにEMSを活用しようとする試みです。

## 研究会が結んだ 地域コミュニティとの縁

「研究会の活動に参加することで、当社に対する地域に対する印象も高まりました。イメージがアップすることは、いい人材を集めるためにもプラスです」。



20日(火)は研究会メンバーでもあるオムロン飯田(株)を調査。冒頭は同社の矢澤敬恭さんの発言です。

「異業種の集まる研究会ですが、ISO14001という共通の仕事に取り組む仲間として、悩みの相談や情報交換を行っています。自分自身の力量が高まることで、自社のEMSの向上にも結びついています」「積極的な環境の取り組みが評価されているオムロングループですが、地域貢献の活動は、グループの中でも弊社が抜きんでており、グループ内でも一目置かれています。これも研究会に参加しているからです」(同社吉川瞳さん)。

「エコドライブの取り組みのように、研究会が呼びかけてくれる一斉行動は、自社独自の取り組みと比べて社内の参加率も格段に高まります。研究会が発信する地域独自の活動や情報を通して、地域とのつながりも大幅に増えています」(矢澤さん)。

点から面への取り組み。研究会のめざす姿が着実に前進しているようです。

\*\*\*\*\*

【ご意見、お問合せ】【配信解除】  
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局  
[toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp](mailto:toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp)  
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局  
[ic1267@city.iida.nagano.jp](mailto:ic1267@city.iida.nagano.jp)



## ロータリー自動車株に初級南信州いむす21登録

「地球温暖化はますます深刻になっています。南信州いむす21の取り組みは地域ぐるみの環境改善運動です。今回の登録を機会に一層取り組みのステップアップをめざしてください。」

11月26日(火)、ロータリー自動車株に南信州いむす21初級の登録証が交付されました。冒頭は牧野光朗南信州広域連合長のあいさつです。



自動車建設機械の販売、整備などを行う同社は、飯沼地区事業所環境保全対策協議会の中心メンバー。同協議会では水質汚濁防止のために、定期的に参加事業所相互の取り組みを点検する活動などを進めています。

燃料使用量 5%、電気使用量 2%、水道使用量 2%。南信州いむす21の取り組み目標達成に向けて、環境委員会を組織。社員全員で取り組みを進めています。また会社周辺の地域清掃を実施、地域の美化活動にも貢献しています。

「弊社は、かねてから環境問題に対する意識を持って、取り組みを進めてきました。けれども審査を受けて、まだまだ改善すべき課題も見えてきました。これからも上をめざして取り組みを進めていきます」。熊崎昇同社代表取締役の決意表明です。

ロータリー自動車株の登録で、11月27日現在登録事業所は初級49、中級7の56事業所。取り組み宣言事業所が1事業所。ISO14001南信州宣言事業所1事業所となりました。

## JEMASシンポジウムで飯田の自己適合宣言を紹介

「国内大企業のほとんどはISO 14001の認証取得を終えています。中小規模の事業所では、エコアクション21など他のEMSの取得が進んでいます。自治体を中心に自己宣言の動きも広がっています。これらはEMSの成熟の証ともいえます。」



11月24日(土)東京青山エポ会議室で、「JEMAS秋季シンポジウム～これからのISO 14001」が開催されました。主催は日本環境管理監査人協会(JEMAS)。同協会は環境マネジメントに関わる環境監査人や研究者、専門家により構成。システムの普及、レベルアップや支援に取り組んでいます。冒頭は小山富士雄副理事長のあいさつです。

シンポジウムでは、ISO14001自己適合宣言組織である飯田市役所と生活協同組合東京マイコープによる事例報告も行われました。

「自治体を中心としてISO14001の外部認証から自己適合宣言や独自のEMSに展開する動きが広がっています。EMSに真剣に取り組む企業が、21世紀を生き抜くことができる。そういう持続可能な地域づくりの視点から、審査制度について改めて考えることが必要です」。(鈴木敏央協会副理事長)



宮城県、青森市は自己宣言方式に移行。福井県、京都府、兵庫県、仙台市、神戸市、横須賀市、富山市は独自システムへ。長野県はエコアクション21へ。自治体をめぐるEMSの状況は急激に変化しています。

## 自己適合宣言組織の責務は不断の改善活動に

「専門機関による審査を受けない組織として、規格との適合性やシステムの有効性について、常に悩みながら取り組みを進めています」「本来業務への展開、トップのコミットメント、職員全体への取り組みの広がり。たくさん課題を意識しながら不断の改善活動を進めることが、自己適合宣言を行った組織としての責務です」(飯田市役所木下)

「取り組みを通してPDCAの視点が浸透、日常の仕事の中で緊張感や一体感も生まれました。EMSは組織強化に有効な仕組みです」「自己適合宣言移行後は、11人の識者、組合員による環境監査委員会による評価を受けています」「個人情報保護やコンプライアンスなどを含め、SRという視点で、統合的なマネジメントシステムの構築に取り組んでいます」(東京マイコープ間野直さん)



「EMS、QMSとも2004年をピークとして頭打ち、減少傾向です。審査員と認証機関の二人三脚で審査の質を高めながら、これまで以上に組織の取り組みの向上につながる制度作りを進めています」(JAB井口新一専務理事)



何よりも、持続可能な地域づくりに有効な仕組みとして、EMSが活用・展開されることが課題です。



【ご意見、お問合せ】【配信解除】  
 沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局  
[toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp](mailto:toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp)  
 木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局  
[ic1267@city.iida.nagano.jp](mailto:ic1267@city.iida.nagano.jp)



## 73事業所54,732人が参加 エコドライブ推進週間

「ごみの分別、レジ袋、エアコン使用など、日常生活と関わり合いの深いところでは環境問題について考えることは多いのですが、もっと多方面で意識した生活をする必要性を強く感じました」。

10月25日(木)から31日(水)にかけて研究会の呼びかけで、「生活と環境まつりエコドライブ推進週間」が行われました。ノーマイカー通勤、エコドライブ、ライトダウン、生活と環境まつりへの参加。今回呼びかけた一斉行動の内容です。冒頭は参加者から寄せられた感想です。

## エコドライブの推進を 外注業者にも依頼

「会社から現場に行くときは台数を減らすように心がけました」「荷物が少ない出張時には、公共交通機関を利用しました」。平地の少ない地域性から取り組むには大変なノーマイカー通勤ですが、延べで5,814人が参加。CO2に換算して12.9tの削減効果です。

「外注業者にもアイドリングストップや急発進禁止を促しました」「社有車を使うときは、燃費の良い車種から優先的に使用するようにしました」。事業所ごとに工夫した取り組みも見られました。アイドリングストップは12,530人、CO2換算で0.4t。急発進急加速の禁止は26,208人、CO2換算で0.8t。

温室効果ガスと地球温暖化メカニズム



## キャンドルを灯して 家族で夕食

「家庭でテレビを見ない曜日を決めています」「キャンドルを灯して家族で夕ご飯を食べました」「外灯を太陽光発電にしました」「事務所でも定時後にライトダウンを行いました」「独自に定時退社のキャンペーンを行い、期間中に延べで877人が参加しました」。ライトダウンの参加者は9,674人、CO2換算で5.1t削減。家庭での取り組みは、家族のふれあいにもつながります。



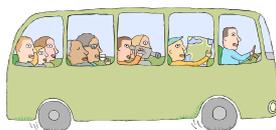
## 環境への関心が高まり 習慣になってきました

10月27日(土)28日(日)に行われた生活と環境まつりにも506人が参加。

「飯田地区の従業員だけでなく、全社に取り組みを展開しました」。外に広がる取り組みになりました。「環境についての関心が高まり、使用していない電気を消す習慣が身に付きました」「通勤以外でもノーマイカーを意識するようになり、徒歩・乗りあわせの機会が増えています」。一斉行動がきっかけで、当たり前の習慣として定着しつつあるようです。「エコドライブや、地球温暖化防止を常に心がけるということは、電気、水道、テレビ、ガソリン代の節約をすることでもあり、家計も助かります」。これこそ環境と経済の好循環です。

## 「自動車

通勤は減らしたいですが、公共交通機関が隅々までなくまた本数もなく無理があります。少なくとも通勤時間帯だけでも増発するようにしてほしい。取り組みに対する課題の指摘もありました。



## 月との往復5.6回 全体で19.2tの削減効果

取り組み全体の延べ参加者は54,732人、CO2に換算して19.2tに達します。ガソリンに換算すると8,283リットル。この取り組みを1年続けると430,701リットル。燃費10km/lの車で走れば82827km。月(片道384,000km)まで5.6往復できます。

1年続けることができれば999t。飯田市の削減目標66,103tにたいし、1.51%に達します。日頃の取り組みとして定着すれば、温暖化防止の大きな力となります。



参加いただいた事業所は以下の通りです。(順不同：敬称略)

- アザーレミックス(株) / 飯田工業(株) / 飯田精密(株) / 磯村裕子 / NSKマイクロプレジジョン(株)川工場 / (株)FLC / 勝間田建設(株) / カムテック(株) / (株)カリス / 技建開発(株) / 桐林クリーンセンター / (株)乾光精機製作所 飯田工場 / KOA(株) / 阿智工場 / KOA(株)飯田工場 / KOA(株)匠の里 / (株)三六組 / (有)竹原運送店 / (株)TACK / 田中精機(株) / 多摩川航空電装機器(株) / 多摩川精機エレクトロニクス(株) / 多摩川精機販売(株) / 多摩川テクノクリエーション(株) / 多摩川ロジステック(株) / (株)タニガワ / (財)中部電気保安協会飯田事業所 / (株)天龍 / (株)ナガイ / (有)ナカタ商事 / 長野三菱電機機器販売(株)飯田営業所 / (株)中村 / 日進精機(株) / 飯伊森林組合 / (有)福岡清掃事業所 / マツカフモータロニクス(有) / (株)丸宝計器 / ミサヤママイクロテック(株) / (株)ミナミ / (株)南信州エコハウス / (有)宮口屋 / (株)山岸エーアイシー / (株)ヨシカズ / 龍共印刷(株) / レムキャスト(有) / (有)アイエス精工 / 旭松食品(株) / (株)アース・グリーン・マネジメント / 飯田市役所 / 飯田商工会議所 / 飯田信用金庫 / 井坪設備工業(有) / エコトピア飯田(株) / オムロン飯田(株) / 化成工業(株) / 木下建設(株) / 神稲建設(株) / (株)光和シチズン平和時計(株) / 信南サービス(株) / (株)タカモリ / 多摩川精機(株) / 中部電力(株)長野支店 飯田営業所 / TDK飯田(株) / (株)トーエネック飯田営業所 / 夏目光学(株) / 南信共同アスコ(株) / (株)八十二銀行飯田支店 / (株)原鉄 / 東日本システム建設(株)飯田支店 / (株)マエダ / 三菱電機(株)中津川製作所飯田工場 / 盟和産業(株) / 吉川建設(株)

\*\*\*\*\*

【ご意見、お問合せ】【配信解除】  
沢柳俊之(多摩川精機(株) 研究会事務局  
[toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp](mailto:toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp)  
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局  
[ic1267@city.iida.nagano.jp](mailto:ic1267@city.iida.nagano.jp)



## 12月22日は 地球環境を考える一夜 百万人のキャンドルナイト



2007年の冬至の日、12月22日夜、8時から10時の2時間、みんなでいっせいにでんきを消しましょう。ロウソクのひかりで子どもに絵本を読んであげるのもいいでしょう。しずかに恋人と食事をするのもいいでしょう。ある人は省エネを、ある人は平和を、ある人は世界のいろいろな場所で生きる人々のことを思いながら、プラグを抜くことは新たな世界の窓をひらくことです。それは人間の自由と多様性を思いおこすことであり、文明のもっと大きな可能性を発見するプロセスであると私たちは考えます。一人ひとりがそれぞれの考えを胸に、ただ2時間、でんきを消すことでゆるやかにつながって「くらやみのウェブ」を地上に広げませんか。

Turn off the light take it slow 電気を消してスローな夜を(百万人のキャンドルナイト公式HPより)

12月22日は冬至。一年のうちで夜が一番長く、昼が一番短くなる日です。一年で一番太陽の光を浴びることのできないこの日には、風邪をひかないために、柚湯に入ったり、かぼちゃを食べたりする習慣もあります。

100万人のキャンドルナイトは2003年夏至(6月22日)の日にスローライフ運動として始まりました。以来夏至と冬至の日を中心に、日本各地で様々なイベントが行われています。

## ライトダウン一斉行動に 参加しませんか

「下久堅の丘の上から飯田を眺めていたら、夜8時たくさんのまちの灯りが一斉に消えました。たくさんの人たちの取り組みとして広がっていることを実感しました」(今年6月22日参加者の声から)。12月22日(金)午後8時から、2007年キャンドルナイトin飯田が行われます。主催は同実行委員会。

19時30分から20時30分、いいだ自然エネルギーネット山法師が運営する、下久堅の化石燃料ゼロハウス「風の学舎」を会場に、飯田エフエム特別番組が放送されます。番組では地域で行われるキャンドルナイトの取り組みの紹介や、音楽ライブが予定されています。午後8時ライトダウン&キャンドル点灯に向けたカウントダウンも行われます。

個人で、家族で、仲間で、会社で、2007年キャンドルナイトin飯田に参加してみませんか。

## キャンドルナイトin風の学舎 参加者募集中



「風の学舎」で行われるキャンドルナイトへの参加者も募集中。かまど、囲炉裏体験、音楽ライブ、合唱など盛り沢山の催しです。参加者は参加費1,000円と一人1重持参。集合は午後4時です。先着30名。参加申込み、照会はいいいだ自然エネルギーネット山法師平澤さん(090-8687-8517 Info@yamaboshi.net) 又は南信州おひさま進歩原さん(56-3711 hara@ohisama-energy-co.jp) まで。17日(月)締め切り。

## 地域から始める 持続可能なエネルギー 社会イノベーションフォーラム

「...地球温暖化は、すでに私たちの暮らしや社会に大きな影響を及ぼしつつあります。



また石油がこのまま高騰を続けると、大きなエネルギー危機が襲うおそれもあります。これらの地球規模の問題に、私たちはどのように立ち向かい、取り組めるのでしょうか。30年前にデンマークの市民が自ら出資して風力発電を立ち上げ、10年前にスウェーデンの地方都市ベクショーが化石燃料ゼロを宣言したことが、欧州、そして世界全体の自然エネルギー普及の先駆けとなりました。つまり、グローバルな環境エネルギーの問題の解決には、地域からの着実な取り組みが鍵を握っています...」。

12月18日(火)午前11時から午後4時30分まで、東京国際フォーラムでISEP社会イノベーションフォーラムが行われます。テーマは「地域から始める持続可能なエネルギーへの挑戦」。主催は環境エネルギー研究所(ISEP)。第1部は映画「不都合な真実の上映会」、第2部はシンポジウム。コーディネータはISEP代表の飯田哲也さん。シンポジストは末吉竹二郎さん(国連環境計画)、枝廣淳子さん(不都合な真実翻訳者)、竹村真一さん(Earth Literacy Program代表)。フォーラムでは地域の先進事例として、「長野県飯田市発の『おひさまの挑戦』」も発表されます。参加申込み、照会は環境エネルギー政策研究所まで。締め切り14日(金)。Tel 03-5318-3331

e-mail [event@isep.or.jp](mailto:event@isep.or.jp)

【ご意見、お問合せ】【配信解除】  
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局  
[toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp](mailto:toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp)  
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局  
[ic1267@city.iida.nagano.jp](mailto:ic1267@city.iida.nagano.jp)



## 「水」について考えました 地域ぐるみ環境講座

「講座を受けて、地球を守るためには、私たちの力が必要であることがわかりました。そして環境を配慮することは私たちにも得があります。私たちの向上は地球のお得！地球の向上は私たちのお得！です」。



12月19日(水)、下伊那農業高校で第4回の地域ぐるみ環境講座が行われました。6月18日(月)から通算4回目、本年度の締めくくりです。冒頭は同校食品化学科の皆さんによる講座のまとめのことばです。

「去年は展示のために暗幕を使っていましたが、今年は自然の光を活かした展示で電気を節約しました」「展示用の装飾も、竹や葉など自然のものを使い、葉は堆肥に、竹はごへいもちの串に再利用しました」。地域ぐるみ環境講座で学んだことを活かすために、同校文化祭「稲丘祭」で環境を配慮して臨みました。

「実習時には節水節電」「ラップ、アルミは洗って捨てる」「洗剤を使いすぎない」日常活動の中でも環境に取り組むようになりました。

食品化学科では本年度、「下伊那の食品産業」の調査も実施。「菓子(31%)」「漬物(25%)」「大豆製品(13%)」、地域の主な食品産業です。「省エネルギー活動」「廃棄物の再資源化と減量」「規制化学物質の削減」「グリーン調達の推進」「製品アセスメントの推進」「地域の環境保全活動」地域食品産業が進めるCO2削減に向けた主な取り組みです。



## 水の大量輸入国日本 仮想水で考える水問題

「自動車1台を生産するために40万リットル、ドラム缶で2,000本の水が必要で、直接取引するもの以外に、製造に必要な水の総量を加えて世界の輸出入の状況を水に換算する考え方を仮想水=バーチャルウォーターといいます。トウモロコシ、大豆、小麦、牛肉などの輸入にあわせて、日本は1年間で640億m<sup>3</sup>の仮想水を輸入しています。国内灌漑用水が590億m<sup>3</sup>、日本の水自給率は48%と推計されます」。



「ペットボトルを破碎洗浄するために1日あたり150~200tの水が必要です。水は工業製品を作る上で欠かすことのできない大事な材料です」。

(株)アースグリーンマネジメント環境推進室長の代田勇さんは、同社で進めるペットボトルのリサイクルに使用する水問題とともに、世界全体の水資源の危機について講義。

「世界第4位の面積を誇った中東の湖アラル海は、総水量の80%を失いました。人類は水を確保するために、帯水層という深い地層にある化石水を利用し始めています。これは水循環の環に組み込まれていない水。人類の生産活動の拡大と地球温暖化は、水問題を一層深刻にしています。水量約14億km<sup>3</sup>を保有し、水の惑星といわれる地球ですが、実は私たちがあてにできる水はそのうちたった2.4%、3,400万km<sup>3</sup>にすぎません」。

## 苦勞して付設した水道 大切に使いたい飲み水

「まず河川の水を取水口で取り込み、沈砂池で砂などを沈めます。その水を着水井に誘導。急速攪拌機にポリ塩化アルミニウムという薬品を投入、フロック形成池で細かい不純物をフロック状に固めます。そして薬品沈澱池でフロックを沈めます。この時点で95%以上の不純物が取り除かれます。さらに急速濾過池で5層の濾過を行い、残りの不純物も取り除きます。最後に浄水池で塩素を加えて飲料水となります」。飲み水をつくるには多くの工程が必要です。



飯田市役所水道課給水係長の棚田昭彦さんは、飯田市の水道水について講義。

「大正から昭和にかけて、中心市街地の人々は、大平黒川に水源を求めて、上水道を整備しました。松川や野底川など身近な河川は何よりも灌漑用の水源。町の人たちは飲み水を確保するために大変苦勞していました。蛇口をひねれば水が出る、そんな暮らしはつい最近実現したものの。水道水は大切に使ってください」。

## 次につなげたい講座

「事業所の活動から環境問題を学ぶ」「地域にある事業所のことを知る」「自分たちの進路を考える機会とする」地域ぐるみ環境講座の3つの目的です。「地域のことを学び好きになる。いろいろな世界のことを知り、振り返って地域を見る。若いうちにたくさんの経験を積む。そんな姿勢でこれからもがんばってください」。最後に研究会からのエールも送られました。次年度にもぜひ引き継ぎたい講座です。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】  
沢柳俊之(多摩川精機株式会社) 研究会事務局  
[toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp](mailto:toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp)  
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局  
[ic1267@city.iida.nagano.jp](mailto:ic1267@city.iida.nagano.jp)



## ウルム市交流第1号 ペーターさんの報告会開催

「いいた人形劇フェスタの期間中、路上で人形劇を鑑賞しました。劇人たちは何もない道路に布きれなどで舞台をつくります。舞台という場をつくった瞬間に、道路は芝居の場所となります。舞台という背景によって他の場所とは違うアイデンティティが生まれるのです。飯田のことを思い浮かべようとすると、飯田のシンボルになるものが浮びあがります。飯田市民がどのような舞台で日常生活を演じているのか思い浮かべることができるものがアイデンティティ。まちにはアイデンティティが必要です」。



12月19日(水)ドイツウルム市の交流職員、ペーター・リンメレさんの報告会が行われました。都市計画の専門家であるペーターさんは6月から半年間、環境課、都市・地域計画課、商業・市街地活性化課などの仕事に携わりました。12月22日(土)には母国ドイツに帰国します。今回の報告会は半年間のまとめの機会です。テーマは「まちづくりのアイデンティティ」。

「太陽系の惑星は一つひとつが独自に自転を行いながら太陽を中心に公転しています。太陽がなくなれば惑星は太陽系にとどまることができません。中心市街地を太陽、惑星を市民に捉えて考えてみると、その必要が見えてきます」「中心市街地に必要な機能は5つ。Variety(多様性), Multi-Function(多機能性), Complexity(複雑性), Density(密集性), Beauty(美しさ)です」。



ジャイカの研修で学生たちと

## 緑をつなげて アイデンティティを 中心市街地のまちづくり

「北イタリアにベルガモという都市があります。小高い丘の上に中心市街地があり、周辺を緑が覆い、周辺部との境界をつくっています。市街地周辺の緑化地帯には遊歩道も整備され、歩いてまわることができます。飯田と共通する地理的条件です。飯田にもりんご並木や人形劇など、まちのアイデンティティの条件はありますが、もっと空間的な視点から、中心市街地について考えてみました」。



「中心市街地に郊外から郊外に抜ける幹線道路が走っています。単なる通過地点としての中心市街地ではなく、訪れる目的や価値のある場所にする必要があります。そして幹線道路は市街地周辺を循環する構造に変えるような交通の流れをコントロールする政策が必要です」。

「飯田の中心市街地には市役所、博物館、動物園、お寺などが点在しています。歩行者を優先し、緑化を重視した道路として構造を改善し、これら公共的な建物同士をつなげていく、緑のベルト地帯としたらどうでしょうか」「飯田郵便局前の道路は車通りが少ない割に広い構造です。緑を増やし公園としてつなげてみたらどうでしょうか」「吾妻町公園の横を通る道路を歩行者用として整備、公園と道路の境界の柵をはずして、樹木の並木をつなげたらどうでしょうか」。まちなかを歩いて感じたことに基づいていくつかの具体的な提案もいただきました。

## つなぎ役も光りました 通訳の足立啓司さん

昨年11月まで21年間ベルリンに滞在。定住の地を求めて豊丘村にIターン。ペーターさんの通訳となり、半年間、私たちとのつなぎ役として活躍してくれたのは足立啓司さんです。通訳としてだけでなく、プライベートでのサポートや、ドイツの文化を伝えてくれる役割も果たしてくれました。ウルム市と飯田市の交流の交流が深まるための、なくてはならない存在です。



## 国境を越えた交流で 共通の課題解決を

「終わってみればあっという間の半年間でしたが、ペーターさんも私たちも互いに様々なことを学ぶことができました。一昨年に行った日独地域国際化サミットが縁で、今回の人事交流につながりました。来年は飯田市からウルム市に職員を派遣します。環境問題や都市計画など、国境を越えた共通課題を、互いの知恵を出し合っ解決につなげるためにこれからも交流を続けていきたいと思います」。牧野光朗飯田市長のあいさつです。



両市にとって実り多い半年間となりました。



【ご意見、お問合せ】【配信解除】  
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局  
[toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp](mailto:toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp)  
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局  
[ic1267@city.iida.nagano.jp](mailto:ic1267@city.iida.nagano.jp)



## もっと小さく、もっと輝く シチズン平和時計を見学

「もっと小さく」とは、当社の事業領域です。当社のモノづくりの原点である小型化・精密技術をさらに追求し、環境に配慮した省エネ・省資源・省スペースのモノづくりを推進します。

もっと輝くとは、当社の事業目的です。当社のあらゆる事業活動を通じて、『すべての従業員が』、『すべてのお客様が』、そして『地域社会全体が』、大きく輝いて欲しいと願っています(HP、代表取締役社長海野幹夫氏あいさつより)

12月21日(金)研究会によるシチズン平和時計株式の事業所見学会が行われました。

シチズングループの同社は、ウォッチ、FA・情報・電子機器などを製造。平和で豊かな「東洋のスイス」をつくろうと1949年10月に「平和時計製作所」として設立。



従業員一人ひとりのモノづくりの力を高めるために、社内に「時計学校」を設立。スーパーマイスター、マイスターA、マイスターBと認定された社員を中心に、主力製品である高級腕時計を製造しています。社員一人ひとりが何かの資格にチャレンジすることを通して、社員一人ひとりが「もっと輝く」風土づくりも進めています。

マイスターの皆さんは、専門の作業スペースを与えられて、高級腕時計を製造しています。集中して進める手作業の工程を、緊張感を持って見学させていただきました。

## 来年につなげたい 地域ぐるみ環境講座

事業所見学会に引き続き、飯田市役所で研究会実務者会が行われました。

今年は新たに6月から4回にわたり下伊那農業高校で地域ぐるみ環境講座を開催。

「地元の企業として、高校生たちの教育活動への協力は大事です」「講座を受け持つことで、自分自身の勉強にもなりました」「これからの担い手を育成する機会に関わることができました」「研究会メンバーであれば、どの企業が講師となっても意味があります」「いろいろな事業所に参加してほしい」。講座に参加したメンバーの感想です。



ぜひ来年にもつなげたい試みです。他校への展開もぜひ考えてみたい講座です。

## ガイダンスの作成も 南信州いむす21の改善を

南信州いむす21は、新システムに移行して1年9ヶ月が経過しました。今年6月に実施した、全事業所を対象とする訪問支援活動や、新規・継続登録審査などの経験に基づき、システムの課題を出し合いました。

「南信州いむす21の理念や仕組みをまとめたもの」「システムの体系についての説明」「環境側面や法令、役割などを記録するための様式を例示したもの」。研究会メンバーが支援や登録審査に赴く際に、訪問事業所に説明するための、ガイドブックの作成が提案されました。

## 内部監査員養成コースの 開催を

9月20日、21日飯田産業技術大学と共催し、ISO14001内部監査員養成コースを、飯田で初めて開催しました。35人が受講。来年度も継続実施を希望する声がありました。

実施予定日を5月とし、研究会メンバーを中心に受講希望者を調査して、一定数に達していれば開催します。

## さらに工夫したい一斉行動

京都議定書発効記念(2月16日)、環境の日を記念一斉行動週間(6月5日～11日)、生活と環境まつり一斉行動週間(10月25日～31日)、この1年で3度の一斉行動を呼びかけました。

参加者数、CO2削減推計値、取り組みの内容とも一定成果をあげています。「月間」から「週間」に期間を短縮して取り組んだことも参加しやすさにつながったようです。これからも継続して取り組みを広げるために、一層工夫した取り組みが必要です。

## 活動の広がり期待

9月23日に行われた信州減CO2(げんこつ)コンテストで、地域ぐるみ環境ISO研究会が、最優秀賞「信州グランプリ」を受賞。2月9日(土)、10日(日)千代田区丸ビルで開催される「一村一品知恵の環づくり」事業全国大会に長野県代表で参加します。

事業所(点)から地域(面)へ、研究会の活動の、一層の広がりが期待されます。



【ご意見、お問合せ】【配信解除】  
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局  
[toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp](mailto:toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp)  
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局  
[ic1267@city.iida.nagano.jp](mailto:ic1267@city.iida.nagano.jp)



## 南信州宣言から1年 株三六組の取り組み

「ISO14001 南信州宣言にあわせて環境方針も改正しました。新しい環境方針には、『地域の環境保全のための具体的な環境美化活動を展開する』という項目を加えました。羽場大瀬木線のごみ拾いや、松川流域のアレチウリを伐採するアダプトプログラムにも取り組んでいます」。



12月26日(水)地域ぐるみ環境ISOメンバーによる株式会社三六組の職場訪問が行われました。冒頭は同社代表取締役、長坂亘治社長のあいさつです。

三六組は総合建設業。主な業務は土木建築業。ログホームの建築も手がけています。

同社は2002年3月ISO14001を認証取得。3年目の更新審査を行わず、独自にEMSの取り組みを維持していました。9ヶ月後の2007年12月21日ISO 14001南信州宣言を行いました。

「自己宣言に対する組織外部の人・グループの確認を求める」、規格との適合を示す方法です。地域ぐるみ環境ISO研究会が組織外部のグループとして適合を認める方式が「南信州宣言」。三六組は南信州宣言第1号です。

南信州宣言から1周年経過したことで、研究会メンバー4人が同社を訪問、取り組みの状況を確認しました。

「騒音や振動などを規制する取り組みとともに、CO2など私たちが排出するものの削減に力を入れています。そのために、業務を通して消費したエネルギーを森林資源に換算する取り組みも始めました」(長坂社長)。地球温暖化防止にも積極的に取り組んでいます。

## 本来業務に結びつく プロジェクトごとのEMS

同社では、新たな工事のプロジェクトが生まれると、プロジェクトの現場ごとに環境影響評価、法令調査、目的目標づくりなど、EMSの計画づくりを事前協議の場を設けて行います。品質や安全管理の取り組みもあわせて行うことで、本来業務と結びついた、きめ細かなマネジメントシステムとして機能しています。



下請負契約者に対する教育訓練も、毎日現場代理人が対応。「毎日の教育訓練は、安全管理を徹底するためにも、有意義です」(北沢祐司営業部長)

## 次のステップは工期短縮

「環境マネジメントシステムも、利益に結びつけるという視点が不可欠という社長の意志を受けて、工期短縮を目的目標とするための準備を進めています」(北沢部長)。同社では、今期行うすべてのプロジェクトの工期を記録しています。次年度からは環境管理室が統括し、標準的な工期目標を設定、プロジェクトごとの工期短縮をめざします。業務の効率化と環境負荷の低減が両立する、ステップアップした取り組みです。



## 求められる 自己宣言のネットワーク

「自己宣言後、外部審査やコンサルタントとのつながりがなくなりました。そのことでEMSに関する他社や専門的な情報が入りにくくなりました。私たちの会社がどのような位置にいるのか、そんな情報を求めています」(北沢部長)。

自治体を中心に広がりつつあるISO14001の自己宣言。けれども民間事業所の取り組みはまだまだ少ないのが現状です。

「ISO9001の利害関係者は顧客であるのに対し、ISO14001の利害関係者は広範多岐にわたり、環境保全という社会ニーズに応え、広く利害関係者に伝えるためには『自己適合宣言』の方が率直であり、自己適合宣言を顧客が認めてくれない、自らでは力不足でできないとされる場合に「第三者認証」を選択するのが本来の姿であるように感じます」(ISO14001自己適合宣言をどのように行ったらよいか～その実務と実例：小林和幸氏著)。自己宣言に対する社会的評価や認知。自己宣言に取り組む組織の交流ネットワーク。ISO14001自己宣言に真摯に取り組む事業所にたいし支援の仕組みが必要です。

## 南信州宣言に 取り組みませんか

南信州宣言に取り組んでみませんか。詳しくは地域ぐるみ環境ISO研究会事務局まで。



【ご意見、お問合せ】【配信解除】  
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局  
[toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp](mailto:toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp)  
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局  
[ic1267@city.iida.nagano.jp](mailto:ic1267@city.iida.nagano.jp)



## 研究会が事例として紹介 2/15にJAB環境ISO大会

「環境課題の取り組みは、点でなく面でやるべき地域活動。一事業者がそのサイト内で取り組んでも、環境問題の解決にはなりません。地域の事業所や自治体はその枠を超え、連携して“ぐるみ運動”を展開してこそ、地域の環境改善がレベルアップするのです。環境ISOの考え方が家庭にまで伝われば、その取り組みは万を超える草の根運動になります。そして、環境意識の高い街として全国にアピールすることができれば、人やモノをこの谷に呼び、地域の活性化にもつながります」。(通信200号秋本範文研究会代表のあいさつより)



2月15日(金)有楽町朝日ホールを会場に「JAB環境ISO大会」が行われます。今年のテーマは「持続可能な社会の実現に向けて～環境ISOの役割」。

大会に向けて組織されたJAB/WGのうち「環境パフォーマンス向上のための環境コミュニティの役割」WGでは、組織の枠を越えて、点から面への展開を進める地域ぐるみ環境ISO研究会の役割に着目。組織のEMSを地域へつなげていくことの必要や可能性について、地域ぐるみ環境ISO研究会の事例に基づき報告が予定されています。

大会では他のWGの報告「EMSの普及促進のために」「マネジメントシステムの統合に向けて」、「温暖化問題と環境管理、制度への期待」(経済産業省)「21世紀に向けての環境政策」(環境省)などの特別講演やパネルディスカッションなども行われます。

問い合わせは(財)日本適合性認定協会JAB環境ISO大会開催事務局まで。(tel 03-3442-1214)

## 2/9,10はストップ温暖化「一村一品」大作戦全国大会

ジャッカ(JCCCA:全国地球温暖化防止活動推進センター)が主催する「ストップ温暖化一村一品大作戦」全国大会が2月9日(土)10日(日)東京丸ビルホールで行われます。

全国大会では応募総数1,070団体から選ばれた各県代表47団体が、自分たちの取り組みをアピールします。

地域ぐるみ環境ISO研究会も長野県代表として、全国大会に参加します。

## WEBで研究会に あなたの一票を!

9日が各県代表による発表会、10日が表彰式。審査委員長はTV東京「開運!なんでも鑑定団」にも出演する中島誠之助さんです。

すでにWEB上での投票は始まっています。審査はWEB投票と、当日の発表の状況で決まります。ぜひ研究会の取り組みに皆さんの一票をお待ちしています。HPアドレスは以下の通り

<http://www.jccca.org/daisakusen/index.html>

【ご意見、お問合せ】【配信解除】  
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局  
[toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp](mailto:toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp)  
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局  
[ic1267@city.iida.nagano.jp](mailto:ic1267@city.iida.nagano.jp)

**地域ぐるみ環境ISO研究会**  
京都議定書発効や環境の日を記念した  
地域ぐるみの温暖化防止一斉行動

**減CO2つくり**

地域ぐるみ環境ISO研究会では、研究会参加団体に、環境問題の改善活動の取り組みを呼びかけ、温暖化防止の取組を推進し、環境問題の解決に貢献することを目的として、2007年10月に設立された研究会です。

**地域ぐるみ環境ISO研究会とは?**

1. ISO14001を認証取得し、維持するため各地の環境ISO研究会を育成・支援  
2. 企業間の環境改善活動を促進し、技術的・経済的支援を目的に、相互協力として活動する  
3. 地域の環境改善プロジェクトを支援し、環境改善の推進に貢献する  
4. 企業間の環境改善プロジェクトの推進に貢献し、個人・企業間の環境改善プロジェクトの推進に貢献する

**活動実績**

●ノーマイカー通勤推進月間	2007年10月	30参加団、1,492人参加、削減量101トン削減
●京都議定書発効1周年 地球温暖化防止アンケート	2007年11月	607人参加、削減量166.2トン削減
●エコドライブ推進月間	2007年11月	619人参加、削減量10.2トン削減
●エコドライブ推進月間	2007年10月	615人参加、削減量10.5トン削減
●京都議定書発効2周年 ノーマイカー通勤ライトダウン	2007年12月	59参加団、2,020人参加、削減量17.2トン削減
●環境の日一斉行動 ノーマイカー通勤ライトダウン	2007年11月11日	74参加団、2,514人参加、削減量14.8トン削減
●環境の日一斉行動	2007年12月	8,330人参加、削減量4,444トン削減 (削減量15,176トン、削減率11.1%)削減
●生活と健康まつり、一斉行動	2007年10月11日	74参加団、2,514人参加、削減量14.8トン削減 削減率11.1%削減

**人とつながりましょう!**

●環境改善活動の推進  
●環境改善活動の推進  
●環境改善活動の推進

**お問い合わせ**

事務局 (財)日本適合性認定協会 事務局  
〒100-0001 東京都千代田区千代田 1-1-1  
TEL:03-3442-1214 FAX:03-3442-1215  
E-MAIL: [ic1267@city.iida.nagano.jp](mailto:ic1267@city.iida.nagano.jp)

**【写真】信州CO2フックプロジェクト2007**

**全国大会で紹介される研究会の活動紹介パネル**



## 地域からエネルギーを変える 社会イノベーションフォーラム 牧野市長が飯田の事例を紹介

飯田発おひさま発電の取り組みや、北海道や東北の風力発電。市民出資による地域発の再生エネルギーの取り組みを進めるISEP環境エネルギー研究所が主催する、第2回社会イノベーションフォーラムが行われます。

テーマは「地域からエネルギーを変える、エネルギーから地域を変える」。1月29日(火)午後2時から4時30分、会場は東京国際フォーラムです。

「自治体政策と再生エネルギー」「地域コミュニティにとってのエネルギー」がテーマの今回、牧野光朗飯田市長がパネラーとして参加します。報告テーマは2004年、飯田市で始まった南信州おひさまファンドや2007年11月募集開始の温暖化防止おひさまファンドの事業に対する自治体首長としての支援です。

全国に先がけて風力・バイオマス・太陽光発電を組み合わせた再生エネルギーによる地域のエネルギー自立を実現した、岩手県葛巻町の中村哲雄前町長と、日本のグリーンコンシューマー運動をリードしてきた環境市民代表理事の枚本育生さんもパネラーです。

コーディネータは環境エネルギー研究所長の飯田哲也さん。グリーン電力証書や市民出資スキームの創設者であり、自然エネルギー政策の第1人者です。

問い合わせや参加申込みは同研究所まで(tel 03-5318-3331)



## 講演会「伊那谷の気象と温暖化の影響」のお知らせ

暖冬、梅雨時の台風、季節はずれの黄砂など、私たちの身の回りでも環境の変化を実感することが多くなっています。



植生の北限と南限が混在する南信州。急速な温暖化によって植生への影響も懸念されます。市田柿やりんごなど南信州の特産物はどうなるのでしょうか。

2月3日(日)午後2時30分から高森町福祉センターで講演会「伊那谷の気象と温暖化が及ぼす当地域への影響」が行われます。講師は村山貢司さん。主催は下伊那北部の地球温暖化推進員などでつくる、地球温暖化防止講演会実行委員会。

村山さんは気象予報士で財団法人気象業務支援センター勤務。NHK「おはよう日本」などに出演。「スギ花粉のすべて：メディカルジャーナル社」「異常気象：KKベストセラーズ」「山の天気：山と溪谷社」「気象の不思議：かんき出版」「病は気象から：実業の日本社」「山岳気象入門：山と溪谷社」など著書多数。

気象や地球温暖化の問題を、農業など地域の問題とつなげてお話しいただきます。

問い合わせは松川町、高森町、豊丘村、大鹿村各役場担当、下伊那地方事務所環境課まで(tel 0265-53-0434)。



## COP13の報告と「不都合な真実」鑑賞会

地球温暖化について考え、行動に結びつけていくことを目的に「南信州・地球温暖化防止エコ推進セミナー」が行われます。

2月25日(月)午後1時から、会場は飯田合同庁舎講堂で行われます。

午後1時と6時30分の2回、映画「不都合な真実」の上映会が行われます。日本語吹き替え版の上映です。

午後3時からは、2007年12月インドネシアバリ島で開催された、COP13(国連気候変動枠組み条約第13回締結国会議)にNGOの立場で参加した、環境エネルギー政策研究所副所長、大林ミカさんの報告会が行われます。



午後3時30分からは南信州地域で進められている温暖化防止の取り組み事例が発表されます。

午後4時からは、テーマごと分科会、参加者同士の意見交換が行われます。

どなたでも参加できます。セミナーに参加することを、温暖化防止のための一歩を踏み出す機会としてみませんか。問い合わせは下伊那地方事務所環境課まで(0265-53-0434)

\*\*\*\*\*

【ご意見、お問合せ】【配信解除】  
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局  
[toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp](mailto:toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp)  
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局  
[ic1267@city.iida.nagano.jp](mailto:ic1267@city.iida.nagano.jp)



## 手作りMYはしで成人式 上久堅の取り組み

1月13日(日)飯田市各地区で成人式が行われました。

このうち上久堅地区では、新成人手作りのMYはしで自分たちの門出を祝いました。

「上久堅といえば『やまばっかり、飯田市なの？知らんし！』などと友だちからいわれます。しかし、山ばかりでもいいところがいっぱいあるし、もっと上久堅について知ってほしいと思います。そこで、今回私たちは小川路峠を登るイベントに参加しました。この峠は険しい山道でとても大変でした。しかし、このイベントを通して自然や人とふれあうことができました。なかでも『秋葉街道を愛する会』の人たちのお話が印象的でした。『今は高速道路のように短時間で遠くに行ける便利なものがあるふれている。しかし、小川路峠のように車では行けない不便な場所にも価値がある。』私たちが感じたその価値とは『お金では得られないもの＝心に残る感覚』があるということ。世の中の流れは便利なものを求めています。が、不便なものでしか味わえない感覚を忘れてはいけません。だからこそ昔から変わらない上久堅が私たちの自慢です。この良さをたくさんの人にわかってもらえるように伝えていきたいと思います」。



冒頭は飯田市成人式の記念誌WISHに掲載された上久堅地区の成人たちのメッセージ「プライズレス」です。

## お金では買えないもの 箸づくりにチャレンジ

飯田市では市内20地区ごとに成人式が行われます。それぞれの成人式は、新成人と公民館が中心となった実行委員会が企画運営を行います。

成人式をその日だけのイベントとせず、新成人たちが新たなことを学んだりチャレンジする機会としたい。飯田市公民館では、そんな思いから、成人式にむけた「体験」も大事にしています。

上久堅地区実行委員は実行委員長の久保田華代さんと副委員長の大平佳奈さんの二人。久保田さんは研究会メンバーオムロン飯田(株)に勤務。二人は小川路峠に登った体験を通し、決して便利でないところでも、時間をかけてお金では買えないものを残そうとしてきた人たちがいることに感銘。



そんな経験から成人式当日に、自分たちの手作り箸を使おうと発案。塩尻市の漆器職人、荻村卓司さんの工房へ出かけました。そこで木曽ヒノキの漆ばしづくりを体験し、上久堅地区の成人19人分のMYはしを作りました。

「MYはしを持ったからといって劇的に変わるわけではないけれど、まず一歩として環境のことを考えてもらえたら」二人の思いです。



## 成人式をきっかけに 次なるエコへのステップを

上久堅地区の成人式は13日12時から上久堅公民館を会場に行われました。

「...特に大事にしたいのは人の暖かさです。暖かな人々の暮らす上久堅の、緑豊かな自然環境を守っていくために、私たちができる第一歩として『MYはし』を今年の記念品としました。

『MYはし』を持ち歩き外食で使用したり、コンビニでも割り箸をもらわず、自分の箸で食べる。こうすることで割り箸の消費が少なくなり、割り箸の原料ともなる木も必要以上に伐採することがなくなり、環境にもやさしくなります。この『MYはし』で、上久堅のことはもちろん、自分の身の回りの環境問題について考えてほしいと思います。そしてこれを一人でも多くの人に広げてください。...」

祝賀会前には実行委員長の久保田さんから参加者に、こんなメッセージが投げかけられました。

手作りMYはしは、参加した成人たちからも大好評。

成人式を通してエコを学んだ若者たち。次なる一歩も期待されます。



\*\*\*\*\*

【ご意見、お問合せ】【配信解除】  
沢柳俊之(多摩川精織株) 研究会事務局  
[toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp](mailto:toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp)  
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局  
[ic1267@city.iida.nagano.jp](mailto:ic1267@city.iida.nagano.jp)